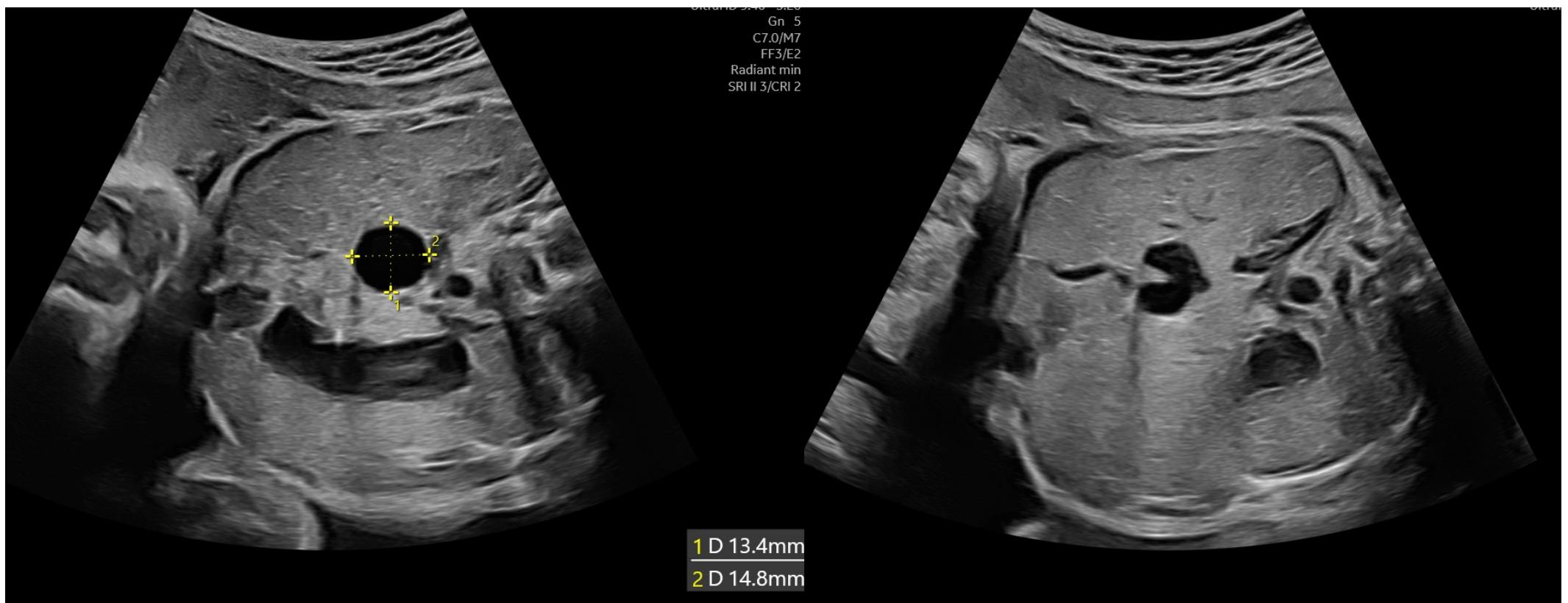


例題 37歳 2妊1産

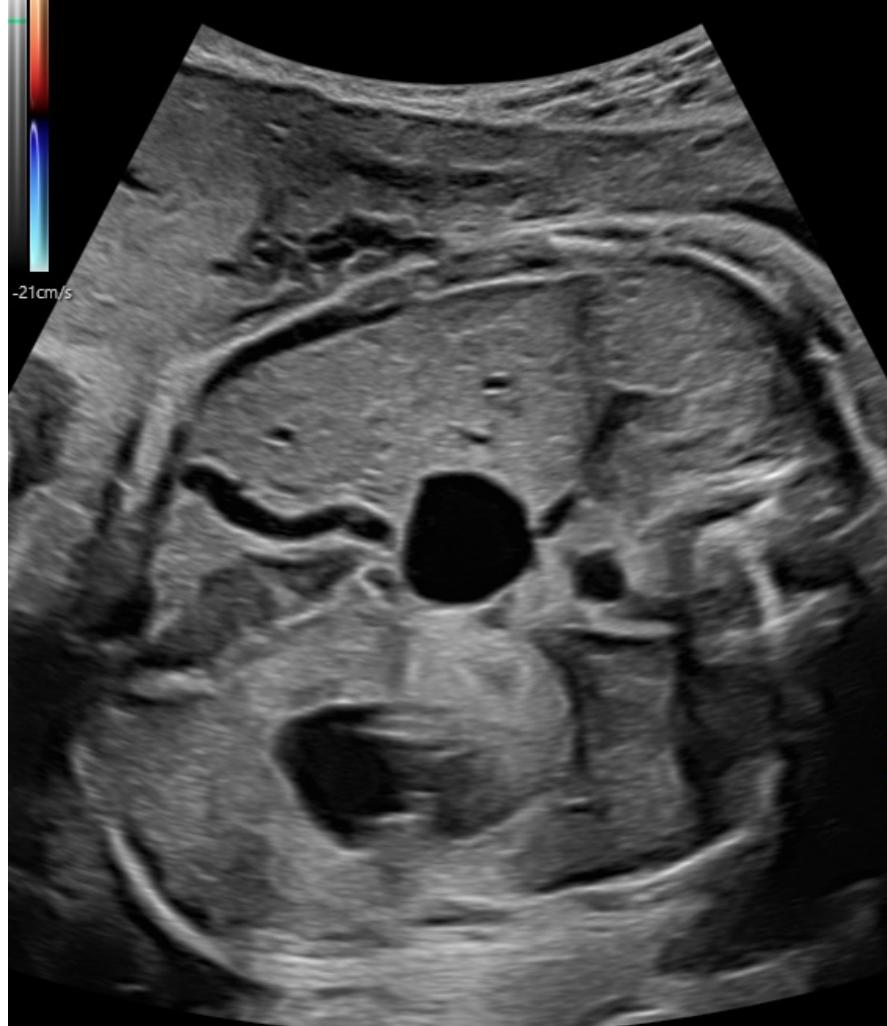
妊娠31週に児の腹部の囊胞にて紹介受診となった

腹部水平断



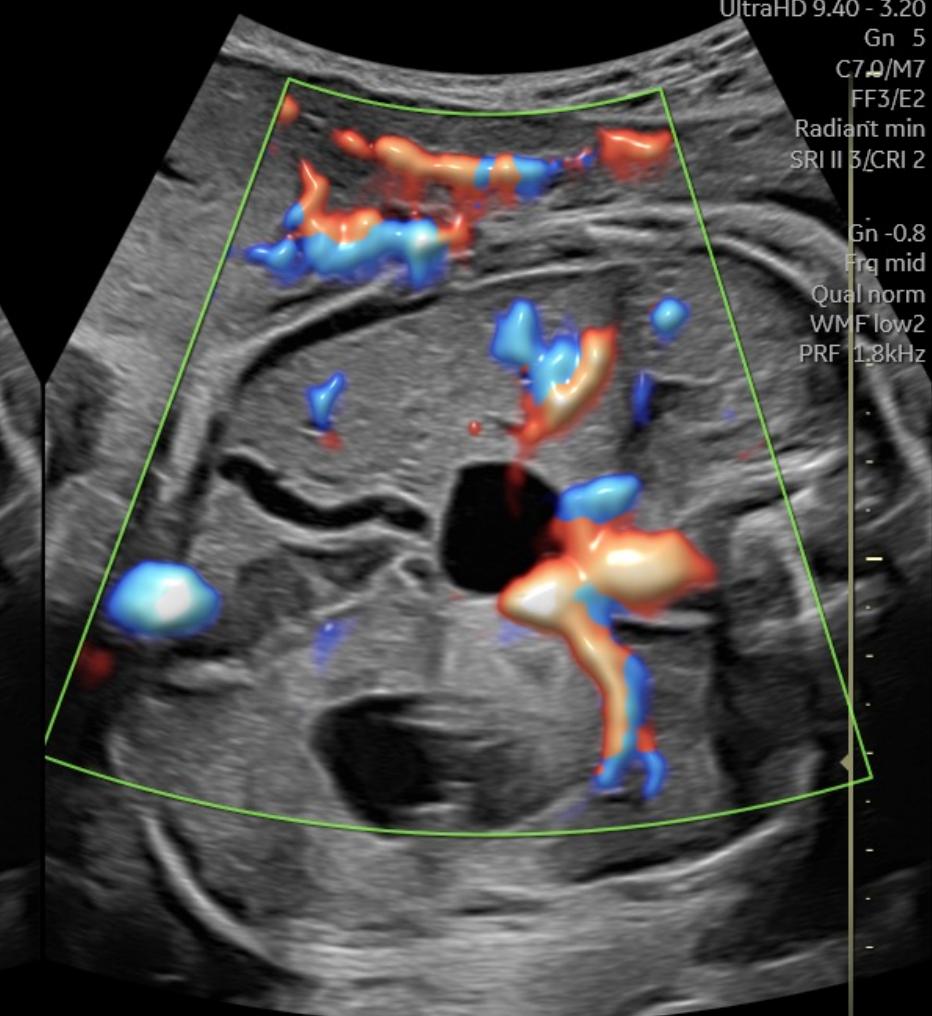
21cm/s

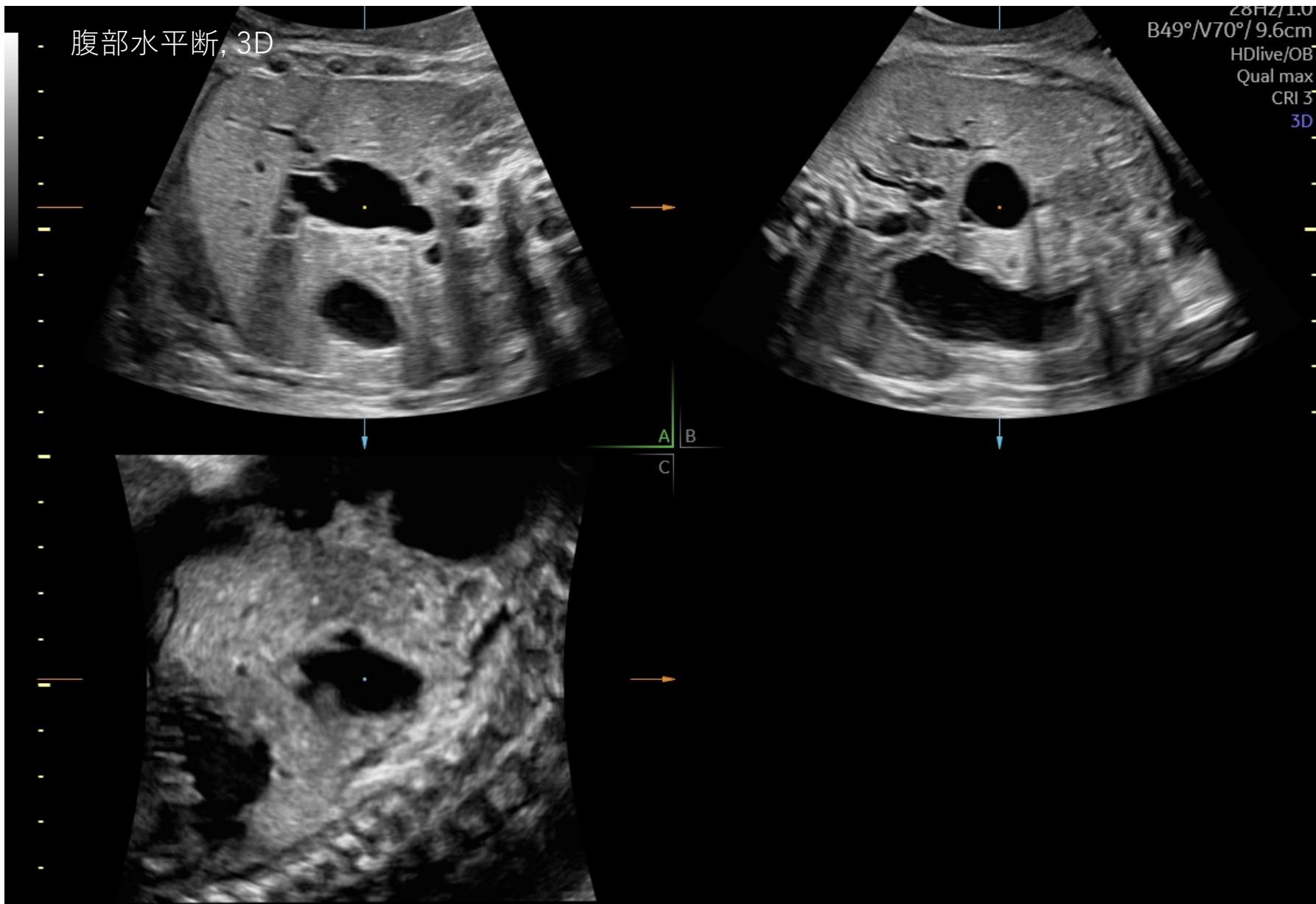
腹部水平断, カラー



Voluson
Expert 22

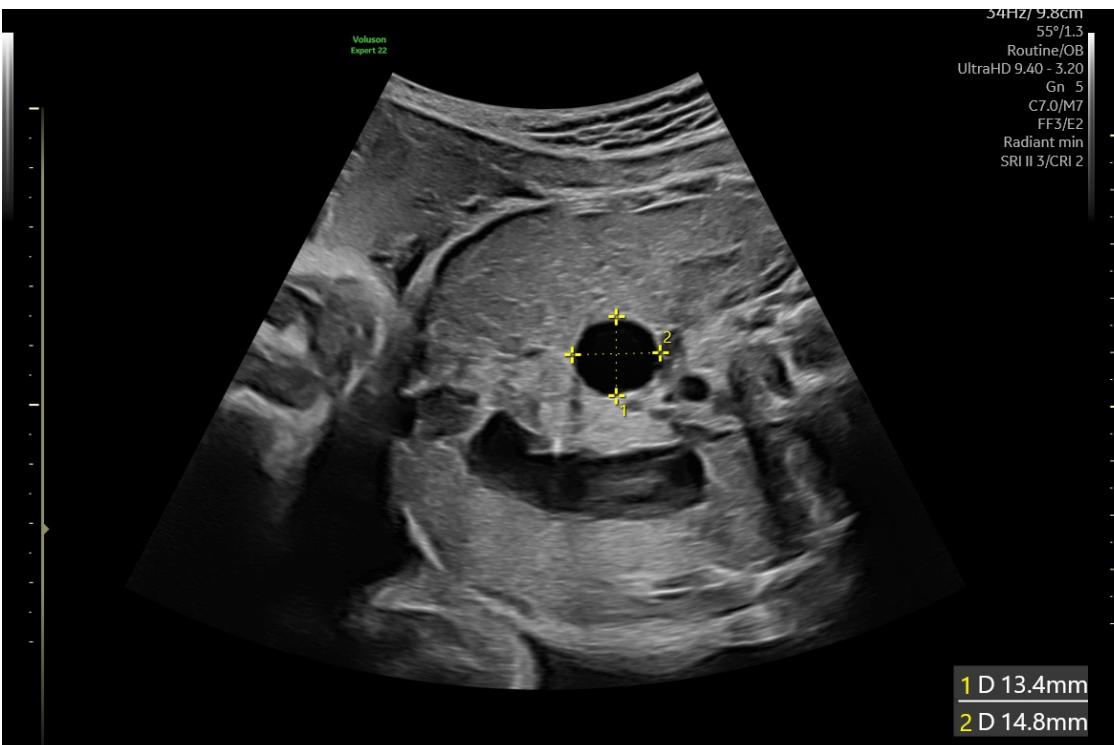
15HZ/ 9.8cm
55°/1.3
Routine/OB
UltraHD 9.40 - 3.20
Gn 5
C7A/M7
FF3/E2
Radiant min
SRI II 3/CRI 2
Gn -0.8
Frq mid
Qual norm
WMFlow2
PRF 1.8kHz



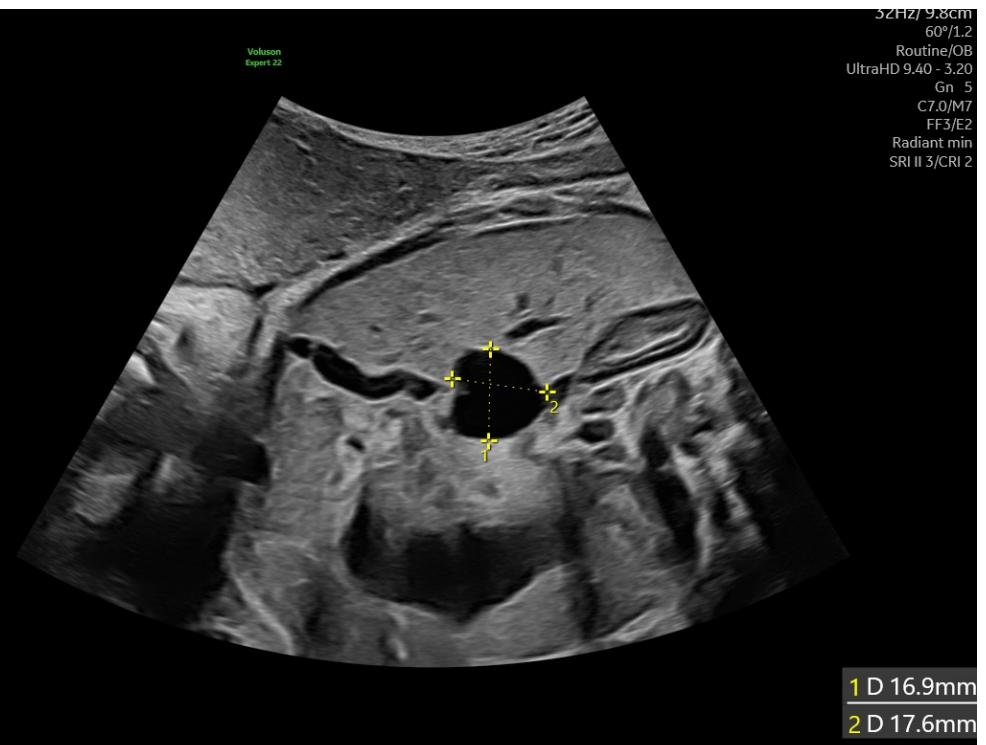


経過

妊娠31週



妊娠36週

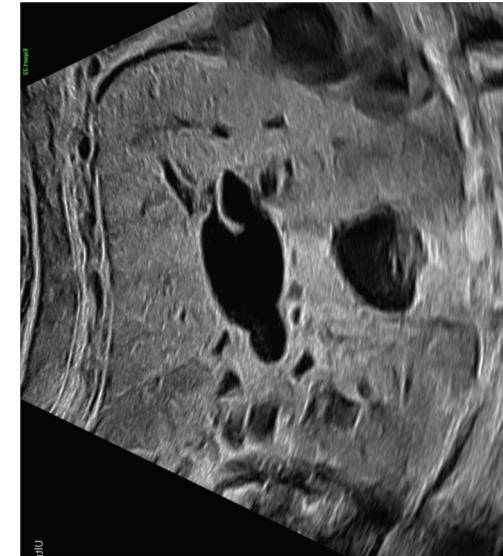
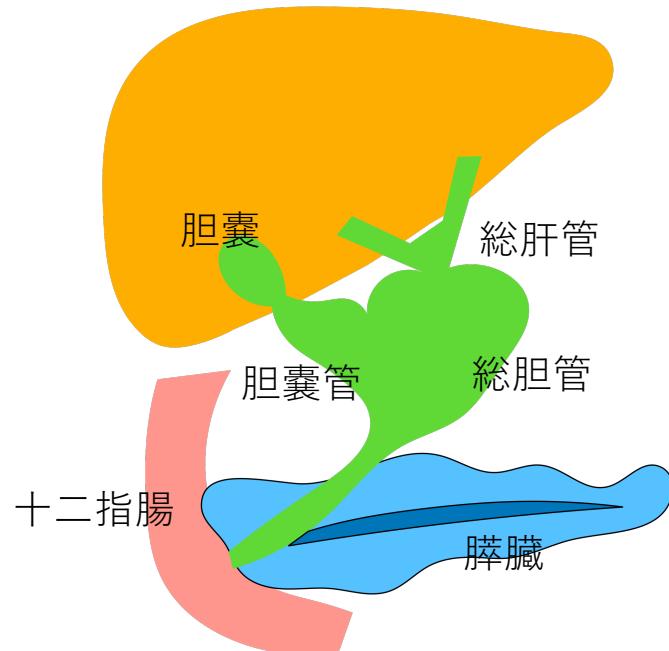


診断は？

- a. 十二指腸閉鎖
- b. 卵巣嚢腫
- c. 重複腸管
- d. 総胆管嚢胞
- e. 肝嚢胞

答え

d. 総胆管囊胞



肝門部に15mm程度の腫瘤があり、形は不整で、胆囊は小さく確認された。腫瘤は胆囊とつながっており、総胆管と胆囊管の腫大と考えられた。

妊娠中に総胆管囊胞のサイズは著変なく経過し妊娠37週で正常分娩で出生。胆道拡張症の診断となり、ビリルビンの上昇を認め、生後2ヶ月で腹腔鏡下空腸肝管吻合術を施行した。